

ものがたり観光

Narrative
Tourism

ものがたり観光行動学会誌 第1号

2011年10月1日発行



瀬戸内海の物語

西田正憲*

From Fujiyama to the Seto Inland Sea, Symposium for Narrative Tourism (Apr. 17, 2010)
Keynote Lecture: "A Story of the Seto Inland Sea"

NISHIDA Masanori

1. 六十余州名所図会と長崎行役日記

瀬戸内海には物語が蓄積している。これから、「瀬戸内海の物語」と題して、近世、近代、現代の風景の物語について紹介したい。駆け足の旅になるが、過去の絵画や紀行文をたどる瀬戸内海の旅に出かけたい。

江戸時代、広重が浮世絵版画『六十余州名所図会』で全国の名所の風景を描きだす。ちょうど黒船でアメリカのペリーがやってきた幕末の1853（嘉永6）年、広重が晩年の57歳の頃から、数年かけて描いた一連の作である。当時の我が国における60余りの諸国について、代表的名所を各国1カ所ずつ描いている。現在の大阪湾に位置する「摂津 住よし 出見のはま」（図1）と「和泉 高師のはま」（図2）は、どちらも一大名所で、美しい白砂の海岸、松林、そして高灯籠、茶店などの風景が描かれている。「出見のはま」はハマグリやシジミがたくさん取れ、人々が磯遊びをした場所であるが、残念ながら現在は埋立てで風景が大きく変わってしまった。帆柱を立てた船が瀬戸内海を走り、遠くに淡路島、明石海峡が見え、右には六甲山の山並みが連なっている。多くの船がちょうど大阪湾を出ていく風景を描いている。

このような風景を印象深い文章で表現した紀行文もある。1767（明和4）年の長久保赤水の『長崎行役日記』は次のようにする。

漸く日出四方明けぬれば、北には甲山、武庫、六甲、摩耶の山々



図1 出見の浜



図2 高師の浜

*奈良県立大学地域創造学部